

北西太平洋サンマ中短期漁況予報

-分布回遊状況解析調査に基づく実用化試験-

1. 今後の見通し

予測期間:2008年10月上旬から11月中旬までの旬別

対象海域:道東海域、三陸海域、常磐海域

対象漁業:さんま棒受網漁業

対象魚群:南下回遊群

1) 道東海域

(1) 来遊量: 10月上旬は高位水準であるが減少を始める。10月中旬には中位水準となり、10月下旬以降は低位水準となり、11月上旬にはほぼ終漁となる。

(2) 漁場: 10月上旬は、落石～釧路沖と襟裳岬沖に漁場ができる。落石沖の漁場は10月中旬に消滅し、10月下旬は釧路～襟裳岬沖が漁場となる。11月上旬は、襟裳岬沖でも散発的となり、終漁する。

2) 三陸海域

(1) 来遊量: 10月上旬は低位水準であるが、10月中旬は中位水準、10月下旬は高位水準へ増加する。11月上旬以降はゆるやかに減少し、11月中旬は中位水準となる。

(2) 漁場: 10月上旬は、八戸～宮古沖に漁場ができる。10月中旬は三陸北部、10月下旬には三陸南部まで漁場が広がり、10月下旬～11月中旬は三陸北部～南部にかけて漁場ができる。

3) 常磐海域

(1) 来遊量: 10月上旬は来遊量は少なく、漁場ができるのは10月中旬以降となる。来遊量は徐々に増加し、11月上旬には中位水準、11月中旬には高位水準となる。

(2) 漁場: 10月中旬は、常磐北部において断続的ながら漁場が形成される。来遊が本格化する10月下旬は、常磐北部が主漁場となり、11月上旬には常磐南部まで漁場が広がる。

2. 予測の概要

海 域		10月上旬	10月中旬	10月下旬	11月上旬	11月中旬
道東海域	来遊量					
	動向	高位減少	中位低下	低位減少	低位減少	
	漁 場	落石～釧路沖・襟裳岬沖	落石～釧路沖・襟裳岬沖	釧路～襟裳岬沖	襟裳岬沖	
三陸海域	来遊量					
	動向	低位増加	中位増加	高位水準	高位減少	中位減少
	漁 場	八戸～宮古沖	北部	北部～南部	北部～南部	北部～南部
常磐海域	来遊量					
	動向		断続的	低位増加	中位増加	高位増加
	漁 場		北部	北部	北部～南部	北部～南部

3. 漁況の経過概要

(9月中旬)

1) 道東海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、前年を下回ったものの、前旬を上回り、高位水準であった。日別 CPUE(1網当たりの漁獲量)から判断すると、期前半から来遊量が多く、期後半にはやや減少した。

(2) 漁場

道東海域の主漁場は、落石～厚岸沖、釧路沖、襟裳岬沖であった。

落石南南東～厚岸大黒島南南西の 10～20 海里付近(表面水温 14～18℃)。連日小型船主体に操業。12～13 日夜と、18～20 日夜は、大型船も 5～10 隻程度操業した。小型船は満船となる船が多く、大型船は最高 100 トン前後、平均 50 トン程度漁獲した。濃群と淡群が混じる大～中群。

釧路南南東～南の 60～100 海里付近(表面水温 18～20℃)。16～18 日夜に大型船が数隻～20 隻程度操業。30～90 トン漁獲。

襟裳岬東南東～南の 30～60 海里付近(表面水温 18～20℃)。11～15 日夜と 19～20 日夜に、大型船が数隻～35 隻程度操業。最高 110 トン前後、平均 50 トン以上漁獲したが、数トンしか漁獲できない船もあった。

(3) 魚体

30cm モードの大型魚が主体。中型以下の魚の混じり具合は、0.1～1 割程度。体重 140～150g 台が主体。